

平成 2 7 年度
(2 0 1 5 年度)

「運営に関する計画」

(最 終 評 価)

「学校関係者評価報告書」

大阪市立矢田西中学校

平成 2 8 年 3 月

— 学校教育目標 —

人間尊重の精神を基盤として、生徒一人一人を見つめる中で、教育内容の充実を図り、保護者・地域の信頼に応える教育をすすめる。

(1) 今年度組織目標

確かな学力や道徳心・社会性、健康・体力など、一人一人の子どもにとって将来の自立に必要な力の育成に努める。

(2) 重点目標

- ① 教職員一人一人が授業力の向上に努め、生徒の学習に対する理解や興味関心の向上をめざす。
- ② とともに育つ地域・校種間連携をめざす。
- ③ 人権尊重の精神を基盤とする豊かな感性を育む。
- ④ キャリア教育を推進し、望ましい職業観を育み、生徒一人一人の進路希望の実現をめざす。
- ⑤ 人と人との「つながり」を大事にした、前向きで活動的な学校文化をめざす。
- ⑥ 礼儀を重んじ、基本的生活習慣を身に付け、社会規範意識の向上を図る。
- ⑦ 健康の保持・増進および体力の向上をめざす。

大阪市立矢田西中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現 状 と 課 題

本校は、就学援助受給率が約 6 割と経済的に家庭環境が厳しい生徒が多く在籍しており、家庭での学習習慣が身につけていない生徒もいる。このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、生徒の実態に沿ったきめ細かな授業を実施し、基礎学力の定着、応用力の育成を図っている。全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等において、徐々に効果が表れつつあるものの、まだ基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合が多い。さらに今後も、より効果的な指導を目指し、指導法を深化させる必要がある。また、生徒に基本的な生活習慣を定着させるとともに、しっかりした規範意識をもたせ、生徒の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図っていくことが必要である。

中 期 目 標**【視点 学力の向上】**

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率 7 割以上の生徒の割合を、平成 24 年度より 3 ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 学力診断テスト(平成 26 年度より大阪府チャレンジテストに変更)における正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 24 年度より 3 ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成 24 年度より 4% 向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成 25 年度からの 3 年間で 5% 向上させる。(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 24 年度より 3 ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成 28 年度調査において 10% 以下にする。(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ①平成28年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成26年度より1ポイント向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ②学力診断テスト(平成26年度より大阪府チャレンジテストに変更)における正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成26年度より1ポイント減少させる。
(カリキュラム改革関連)
- ③平成27年度の生徒アンケートにおける「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成27年度の生徒アンケートにおける「私はすすんであいさつをしている」の項目について、「よく当てはまる(大体当てはまる)」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ②平成28年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ③平成27年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。
(マネジメント改革関連)
- ④平成27年度の生徒アンケートにおける「体育大会や文化祭などの学校行事は楽しく、進んで取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ①平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、男女とも全国平均を上回る。
(カリキュラム改革関連)
- ②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成28年度調査において前年度より減少させる。
(カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

平成27年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率は、国語については平均が7割台を維持しており、平成28年度の調査（4月実施）も概ね目標を達成できる見通しである。数学については6割台で足踏み状態となっており、達成が微妙な状況である。全体的には、昨年度とほぼ同様であり、本年度の取り組みの効果により目標を達成できるように努めてきた。

学習に対する興味、理解度については、国語・数学において、「勉強が好きだ」「授業の内容がよくわかる」と回答した生徒が全国平均を上回っており、各教科の指導法や授業における創意工夫や努力の賜物と考えられる。しかし、結果に結びついていない場合もあり、学習内容の定着に向けて一層取り組む必要がある。習熟度別少人数授業やTT授業の実施、指導内容の精選や指導方法の工夫などにより、今後も生徒が明確な学習意欲を持って授業に参加し、学力の定着が図れるよう取り組みをさらに進める。

【視点 道徳心・社会性の育成】

生徒へのアンケートの結果では、進んであいさつをしている（どちらかといえばしている）と答えた生徒は約83%であった。また、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている（どちらかといえば守っている）と答えた生徒は約90%で昨年から大幅に伸び、現段階で目標に達している。道徳や学活の時間での指導や「朝のあいさつ運動」や「おそうじ隊」などの取り組み、生徒会・部活動を中心にあいさつ・正しい言葉遣いを身につけさせるなど、日々の学校生活を通して、全教職員が細やかに生徒に対応し、道徳教育の推進に努めた成果があらわれてきた。これまでの取り組みをさらに進めながら、本年度から取り組んでいるキャリア教育の深化も進めていきたい。

【視点 健康・体力の保持増進】

平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における2年生の合計得点は、男女とも本年度も全国平均を上回った。本校の取り組みにより、運動の楽しさやその効果を伝えることについては一定の成果があらわれ、運動やスポーツについて関心を持つ生徒が増えた。小学校と連携して、引き続き運動の楽しさや効果を伝える取り組みを進め、運動やスポーツに対する意識を高めるとともに、実際に運動する環境を整える取り組みを行なう。

また、朝食を食べていない（あまり食べていない）と答えた生徒の割合は、平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査においては約10%程度で横ばいであるが、74%の生徒は、「朝食を毎日食べている」と回答している。引き続き授業や学活等で、朝食の大切さについて考えさせるとともに、早寝早起き朝ごはんといった基本的生活習慣を身につけさせる取り組みを行なう。

大阪市立矢田西中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ①平成28年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成26年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連) ②学力診断テスト(平成26年度より大阪府チャレンジテストに変更)における正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成26年度より1ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連) ③平成27年度の生徒アンケートにおける「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。(マネジメント改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 言語力や論理的思考能力の育成】 言語力向上、表現力育成のために、読書活動の推進に取り組む。(カリキュラム改革関連) 指標 読書習慣の育成のため、また教科学習・総合学習における情報センターとしての機能を十分に果たせるように、学校図書館を整備する。	B
取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】 指導法の改善に向けて、授業研究に積極的に取り組む。 (カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連) 指標 研究授業を全教員1回以上実施する。	B
取組内容③【区分 小中一貫した教育の推進】 小中一貫したカリキュラムの点検・改善に取り組む。(カリキュラム改革関連) 指標 小中一貫教育実行委員会を年間2回開催し、点検・改善を行う。	B
取組内容④-1【区分 各教科(国語)】 言語力向上の取り組みを行う。(カリキュラム改革関連) 指標 自分の思いを表現し、文章化できるように作文指導を適宜実施する。	B
取組内容④-2【区分 各教科(社会)】 基礎学力の定着を図る。(カリキュラム改革関連) 指標 地図や資料、日々のニュースや新聞などを活用し、地理・歴史・公民の学習を進める。	B
取組内容④-3【区分 各教科(数学)】 個に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。(カリキュラム改革関連) 指標 補助教材の活用や問題の選別により、個に応じた指導を進める。	B
取組内容④-4【区分 各教科(理科)】 基礎学力の定着を図る。(カリキュラム改革関連) 指標 実験方法の創意工夫、理科室の整備及び実験器具の充実、教材の精選に努める。	B

取組内容④-5【区分 各教科（音楽）】 音楽活動の基礎的な能力の伸長を図る。（カリキュラム改革関連）	B
指標 音楽を表現するための基本的事項の習熟とその定着を図り、また合唱・合奏・鑑賞を多く取り入れる。	
取組内容④-6【区分 各教科（美術）】 美術の基礎的な能力の伸長を図る。（カリキュラム改革関連）	B
指標 形や色彩などによる表現の技能を身につけさせ、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる指導を進める。	
取組内容④-7【区分 各教科（技術・家庭）】 基礎的な知識や基本的な技術の習得を図る。（カリキュラム改革関連）	B
指標 実習や製作を必要に応じて取り入れる。	
取組内容④-8【区分 各教科（英語）】 基礎学力の定着を図る。（グローバル化改革関連）	B
指標 T・T・少人数授業による細やかな指導により「聞く・話す・読む・書く」の4技能を重点的に伸ばす。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	学校図書館補助員の方を中心に、蔵書の整理・データー化を行い、図書室の整備が進んだ。昼休み以外に金曜日にも図書室を開放し、読書活動の推進に取り組んだ。
取組内容②	研究授業週間に全員の授業参観を行ないやすくし、授業参観シートを活用して、授業研究に取り組み授業力の向上を図った。
取組内容③	小中一貫教育実行委員会を開催した。様々な教育活動全般についての連携が図られた。（体験授業、クラブ体験など）
取組内容④-1	創作活動（1年詩、2年短歌、3年俳句）を通じて言語に親しむと共に、毎時授業の最初に取り組んでいる3単語（新出漢字の学習）に於いて、言語力向上を図る工夫を行なった。
取組内容④-2	地理＝地図・歴史＝資料集・公民＝日々のニュースや新聞などを活用し、また、基礎的なプリントにも取り組み、基礎学力の定着を図った。
取組内容④-3	問題集やプリントを使い家庭学習をさせることで基礎学力の定着を図った。また、T・Tを行うことで個に応じた指導を行なうことができた。
取組内容④-4	問題集を活用したり、実験・実習を精査して行ない、基礎学力の充実が図れた。
取組内容④-5	基本的な演奏能力の向上を図るため、グループで相互チェックを行なったり、机間指導などの個人指導、また放課後や始業前に補習などを行なった。
取組内容④-6	多様な題材に取り組むなかで、段階ごとに必要な実技の一斉指導、机間指導などの個人指導を行ない、全員が一定以上の技能を習得できるよう努めた。
取組内容④-7	技術科、家庭科ともに、座学と実習をバランス良く取り入れて授業を進めることができた。
取組内容④-8	3年生ではT・Tを実施し、細やかな指導を行なってきた。各学年でインタビューテスト・音読テストを実施し、「話す」「読む」学力を高めてきた。また、リスニングや英作練習・単語テストを通して「聞く」「書く」技能を高めた。音読練習では積極的に参加する姿が見られた。

次年度への改善点

- 取組内容① 図書室だよりを発行し、図書室に関する掲示物などを充実させて、読書活動を推進していく。学級文庫をもっと活用できるようにする。
- 取組内容② 校外の研修に参加した成果を教職員に伝える機会をつくっていくことによって、校内研修を充実させる。
- 取組内容③ さらに小学校の教職員との連携を深め、9年間を見通した指導体制の構築に努める。
- 取組内容④-1 より一層の語彙力向上を図るために、指導を工夫する必要がある。
- 取組内容④-2 教科書改訂にともない、新しい資料作りや授業の組み立てに努める。
- 取組内容④-3 低学力生徒の学力を向上させるための指導方法を考える。
- 取組内容④-4 教科書が次年度改定になるので、新しい実験に備え準備する。
- 取組内容④-5 教科書改訂にともない、新曲指導に備え準備する。
- 取組内容④-6 生徒の発達段階と3年間で身に付けるべき能力の習得が合致するよう、より学習内容の充実に努める。
- 取組内容④-7 生活に密着した教科という特性を活かし、生活していく上で必要な技術と知識を習得できるように努める。
- 取組内容④-8 小テストや暗記テストを通して達成感を感じさせ、前向きに頑張る姿勢を身につけさせる。英語が「楽しい」・「分かる」という生徒が増えるよう、授業内容に工夫を凝らす。

大阪市立矢田西中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ①平成27年度の生徒アンケートにおける「私はすすんであいさつをしている」の項目について、「よく当てはまる(大体当てはまる)」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。 (カリキュラム改革関連) ②平成28年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。 (カリキュラム改革関連) ③平成27年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。 (マネジメント改革関連) ④平成27年度の生徒アンケートにおける「体育大会や文化祭などの学校行事は楽しく、進んで取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】 互いの違いを認め合い、人権尊重の精神と態度を育てる教育を推進する。また、参加型や体験型の学習内容・方法を取り入れ、感性を高める指導を行う。(カリキュラム改革関連) 指標 年に1回芸術鑑賞行事を実施し、豊かな情操の育成につなげる。	B
取組内容②【区分 道徳教育の推進】 規範意識の醸成、また正しい人間関係の構築に向けて、計画的に取り組む。 (カリキュラム改革関連) 指標 道徳の時間を中心として、すべての場面で生徒が物事の善悪を判断できるよう指導を行う。また、部活動を中心として、あいさつ・正しい言葉遣いを見につけさせる。	B
取組内容③【区分 問題行動への対応】 問題行動の未然防止に向けて取り組む。(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連) 指標 各学年で防犯教育を年1回実施する。	A
取組内容④【区分 不登校への対応】 不登校生徒を減らす取り組みを進める。(カリキュラム改革関連) 指標 月に1回程度、教職員全体で情報交換を行なう。	B
取組内容⑤【区分 特別支援教育の充実】 障がいのある子どもと共に生きる意識の育成や共に成長することのできる集団を育てる取り組みを行う。 (カリキュラム改革関連) 指標 特別支援教育についての校内委員会を毎月1回開き、情報交換を行う。	B

<p>取組内容⑥【区分 特別活動】</p> <p>生徒の自主的な運営による特別活動を推進するとともに、各行事において「人と人のつながり」や「絆」を大事にした取り組みをおこなう。</p> <p>(カリキュラム改革関連・マネジメント改革関連)</p> <p>指標 ・生徒会による週一回の全校集会や、月一回の生徒議会・専門委員会の自主的な運営をおこなう。</p> <p>・文化祭・体育大会において、「人と人のつながり」や「絆」を大事にした取り組みをおこなう。</p>	B
<p>取組内容⑦【区分 キャリア教育の推進】</p> <p>生徒一人一人が、将来の生き方を考える力を養う取り組みを行なう。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施する。</p>	B
<p>取組内容⑧【区分 国際社会に生きる子どもの教育の推進】</p> <p>子どもたちが自らの民族の歴史や文化・伝統を尊重し、自己の確立を図ることで、多様な文化を理解し、共に生きていく国際人としての資質や能力の育成に努める。</p> <p>(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)</p> <p>指標 日本の文化および韓国・朝鮮の文化に触れる取り組みを各学年1回実施する。</p>	B
<p>取組内容⑨【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</p> <p>生活指導上の問題の解消に向けて、家庭や地域との連携を推進する。</p> <p>(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)</p> <p>指標 毎月1回、青少年指導員との合同巡視を行なう。</p>	A
<p>取組内容⑩【区分 防災教育の推進】</p> <p>生徒・教職員の防災意識の向上に努める。(ガバナンス改革関連)</p> <p>指標 地域と協力して、防災訓練で消火・救助・救命の体験活動等を実施する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 人権尊重の精神と態度を育てる様々な人権教育を行なった。</p> <p>取組内容② 道徳の年間教育に基づいて各学年に応じた道徳教育を進めた。</p> <p>取組内容③ 夏季休業前に、全学年で携帯安全教室を実施し、自転車の新しいルールについての指導を各クラスで行なった。</p> <p>取組内容④ 毎月生指部会で情報交換を行ない、情報の共通理解を図った。また、担任は、不登校の生徒に対して、家庭連絡や家庭訪問などをこまめに行ない、保護者との連携も図った。</p> <p>取組内容⑤ 校内委員会で生徒の状況や課題について話し合い、共通理解を図ることができた。</p> <p>取組内容⑥ 執行委員会や子連協等において、生徒会役員自身が自主的に動き中心的な存在感をあらわすことができた。また、校内外の取り組みにも積極的に参加することができた。</p> <p>取組内容⑦ 1年生で、職業講話を実施した。来年度に向けて職場訪問や、職業体験に向けて準備を進めている。2・3年生は、卒業後の進路に向けて、情報を精査し準備を進めた。</p> <p>取組内容⑧ 3年生でハングル講座、2年生で楽器体験を行った。1年生では3学期にチョソンの遊びを実施した。各学年、朝鮮・韓国の文化に触れ、理解を深めることができた。</p> <p>取組内容⑨ 家庭との連携は、連絡をこまめに行った。また、青少年指導員との合同巡視は、本年度から時間帯を30分繰上げ、少しでも早い時間帯に注意・指導を行えるように変更した。また、地域の様々な取り組みに参加し、地域との繋がりを持つことができた。</p>

<p>取組内容⑩ 9月5日（土）に2年生が防災訓練を実施し、消火・救命について学習した。12月5日（土）には1年生が地域防災訓練に参加し、地震体験や煙体験など貴重な体験ができた。地域の防災リーダーの皆さんや東住吉消防署の署員の方々からご指導をいただき、防災意識が高まった。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>取組内容① さまざまな人権教育を、具体的な年間教育に基づいて進めていく。</p> <p>取組内容② 道德教育の時間を確保する。道德教育の具体的な年間計画を構築する。</p> <p>取組内容③ 警察と連携を図り、非行防止教室や安全防犯教室などを計画していく。</p> <p>取組内容④ 定期的な情報交換を進め、情報の共通理解を行なう。また、関係諸機関との連携も図っていく。</p> <p>取組内容⑤ 各学年に応じた特別支援教育と実施時期を検討していく。</p> <p>取組内容⑥ クラブ活動や地域のスポーツチームに参加している生徒でも、生徒会活動ができるように、活動計画を考え取り組んでいく。</p> <p>取組内容⑦ キャリア教育が、次年度以降も継続して実施できるよう、資料などの整理に努める。</p> <p>取組内容⑧ ソンセンニムが来校の際は積極的に交流ができるよう、教室開放の時間の使い方を工夫していく必要がある。</p> <p>取組内容⑨ 地域の青少年指導員・保護司会等の連携や情報交換を行ない、連携を図っていく。</p> <p>取組内容⑩ 地域との連携を深め、継続して防災教育に取り組んでいくことが大切である。</p>

大阪市立矢田西中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ①平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、男女とも全国平均を上回る。(カリキュラム改革関連) ②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成28年度調査において前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 体育科の授業の充実等】 集合整列、準備運動など授業規律を確立し、運動の楽しさだけでなく、体力や健康への関心を高め、体力の向上を図る。(カリキュラム改革関連) 指標 スポーツテストを年1回実施し、各個人の体力、運動能力を把握させる。	B
取組内容②【区分 健康な生活習慣の確立】 健康な学校生活が送れるように計画的に指導を進める。(カリキュラム改革関連) 指標 「保健だより」等を通じて、積極的に情報発信に努める。	A
取組内容③【区分 食育】 食に関する興味・関心を高めるよう計画的に指導を進める。(カリキュラム改革関連) 指標 食育に関する指導を各学年で年間1回取組む。	A
取組内容④【区分 健康に関する現代的課題への対応】 健康な学校生活が送れるように計画的に指導を進める。(カリキュラム改革関連) 指標 喫煙・飲酒・薬物乱用の害について、各学年で年間1回取り組む。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① 1学期に全学年でスポーツテストを実施し、各生徒に結果を返し、各個人の体力・運動能力を把握させた。 取組内容② 保健だよりの定期・号外の発行を中心に、情報発信に努めた。 取組内容③ 1年では「朝食」、2・3年では「食事のマナー」の指導を行い、毎月食育便りを発行している。また、今後全校生徒と保護者へ向け、「栄養管理」に関する指導を行なった。 取組内容④ 1年では「喫煙」、2年では「飲酒」、3年では「薬物乱用」の指導を行なった。

次年度への改善点
取組内容① スポーツテストの実施方法・実施時期を工夫し、さらに体力の向上を図れるように努める。
取組内容② 生徒の興味・関心を高めるようさらに工夫し、保健指導の効果アップにつなげる。
取組内容③ 1年では「朝食」、2年では「食事のマナー」の指導を継続的に行い、新3年向けに新たな指導計画をたてる。
取組内容④ 生徒の実情に応じて内容の充実に努めたうえ、今後も継続して指導に取り組む。

平成27年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- ・生徒・保護者アンケートの結果や学校の状況視察、保護者・地域の意見を総合すると、現在の学校の教育活動に対して肯定的な意見が多く、一定の成果が得られていると確認できる。
- ・特に生活指導面については、「ルールを守る」「すすんであいさつをする」と答えた生徒が8割を超え、落ち着いて学習できる環境になっている。
- ・学習面については、まじめに取り組んでいる生徒が多いが、理解度が結果に結びついていない場合もある。学校での基礎・基本や学習内容の定着や家庭学習の習慣づけなど、学力の向上に向けて、さらなる創意工夫を行なうことが課題である。
- ・今後、さらに教育活動や教育環境の改善、地域との連携、小中の一貫した教育を推し進め、地域に信頼される学校にする必要がある。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【視点 学力の向上】

- ①平成28年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成26年度より1ポイント向上させる。
- ②学力診断テスト(平成26年度より大阪府チャレンジテストに変更)における正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成26年度より1ポイント減少させる。
- ③平成27年度の生徒アンケートにおける「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

- ・平成27年度の全国学力・学習状況調査においては、大阪市平均を下回ったが、長期的にみると学力の向上が見られる。学校が落ち着いて学習できる環境にあり、日頃の学習活動について一定の成果が表われたものとする。
- ・習熟度別少人数授業やTT授業の実施、指導内容の精選や指導方法の工夫などにより、基礎学力の定着に努め、成果を上げているものもある。より一層の向上を望んでいる。
- ・授業においては、生徒が意見を発表したり、お互いの考えを話し合う場面をつくるなど、生徒の学習する意欲を高める工夫をしており、これが学力の向上につながることを期待する。
- ・研究授業などの研修を計画的に実施し、教員の授業力を高める取り組みは評価できる。

年度目標：【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成27年度の生徒アンケートにおける「私はすすんであいさつをしている」の項目について、「よく当てはまる(大体当てはまる)」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。
- ②平成28年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。
- ③平成27年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成26年度より2%向上させる。

④平成２７年度の生徒アンケートにおける「体育大会や文化祭などの学校行事は楽しく、進んで取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を８０％以上にする。

- ・「あいさつ」については、「すすんであいさつをしている」と答えた生徒が８３．７％あり、日々の学校生活を通じた指導により、きちんとできる生徒が増えてきたことには一定の評価ができる。ただ、校外では、まだ不十分な生徒もあり、更なる指導をお願いしたい。
- ・教育活動のあらゆる場面で、人権教育に取り組んでいるが、生徒に十分な人権感覚が身についているとはいえず、さらに推し進めていく必要がある。また、感謝の大切さを伝える教育をお願いしたい。
- ・生徒会や部活動の活性化が図られ、それとともに生徒の地域行事への参加も増加している。さらに、積極的な参加を期待している。

【視点 健康・体力の保持増進】

①平成２７年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、男女とも全国平均を上回る。

②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成２８年度調査において前年度より減少させる。

- ・体力・運動能力調査の結果、ここ数年全国平均を上回っており、体力・運動能力も向上してきている。運動やスポーツに対する意識を高めることにも成果が表われてきた。より一層、運動する環境を整えるようお願いする。
- ・食育の推進などは、学校の特色ある教育として定着していると思われ、評価できる。
- ・喫煙・飲酒・薬物乱用の防止についての指導は、継続して実施されている。これからも効果が上がるよう毎年実施してほしい。
- ・中学校給食について、平成２８年度から学校調理方式(親子方式)が実施されることになり、改善される。今後、実施に向けて、できる限りより良いものにしていくように努めてほしい。

3 今後の学校運営についての意見

- ・体育大会、文化祭、学年行事等で、生徒が主体的に活動するプログラムを積極的に取り入れ、高い評価を得ている。
- ・学校ホームページなどを利用して学校公開に努めているが、さらに地域との連携を進めていく必要がある。
- ・一小一中の利点を生かして、小中連携をさらに推し進めていかなければならない。
- ・読書習慣の定着と図書館の有効活用について、学校元気アップ事業とも連携した取り組みを行なっていると聞いている。継続して読書活動の充実に努めてほしい。